

令和5年度 住吉苑拠点 事業計画書

I. 拠点内容

○ サービス区分

- ・ 養護老人ホーム住吉苑 定員 60 名
- ・ 特定施設入所者生活介護 定員 35 名
- ・ 住吉訪問介護センター
- ・ 住吉定期巡回・随時対応型訪問介護看護センター
- ・ 住吉夜間対応型訪問介護センター

II. サービス取り組み

1. 各サービスの取り組み

A) 養護老人ホーム住吉苑

環境上の理由及び経済的理由により在宅での生活が困難な高齢者に対して住まいの提供、自立支援、社会参加に必要な支援を行います。共同生活の中でその人らしくいきいきと生活できるような施設を目指します。

入所者の受け入れに際し、近年の複雑化する生活課題（虐待やDV、地域からの孤立、ごみ屋敷、8050問題など）への対応力が求められています。ソーシャルワーク機能の強化に加えて、支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などに積極的に働きかけて入所につなげてゆくアウトリーチ活動を行う。近年多様化する高齢者住まいの中において単なる介護施設ではない養護老人ホームの価値を発信していきます。

また、近年新型コロナウイルスの影響により希薄となってしまった地域との交流、社会参加への実践等、地域における福祉施設としての役割を再構築し、コロナ禍の終息後を見据えた地域包括ケアの推進を視野に入れた取り組みを行ってまいります。

特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型特定施設）

入所者の高齢化に伴い、日常生活全般に介護が必要な状態となった入所者に関しては、介護保険制度を利用し特定施設入居者生活介護として食事、入浴、排せつ等の身体介護、生活援助を行います。

◆ 行動指針

- 安心で明るく楽しい笑顔ある暮らしを実現します。
- 地域における交流の場となるよう努めます。
- 質の高い介護サービスの提供を行います。

- ◆ サービスの取り組み
 - 地域における福祉施設としてソーシャルワーク機能、多様化する入所者の生活課題やニーズへの対応を行います。
 - 介護サービス
介護度の重度化への対応。介護職員のスキルアップとして実務者研修資格取得・介護福祉士資格取得費用補助、法人内研修、外部研修への参加援助します。
 - 医療的ケア
入所者の高齢化にともなう医療ニーズの増加。看護職員によりきめ細やかな健康管理と医療ケアの実施を行います。
 - その他
新型コロナウイルスの影響により、ここ数年間自粛傾向であったイベントを、感染状況を考慮しつつ再開します。レクリエーションやクラブ活動、外出行事等を行い、入居者の生きがいつくりを行います。

- ◆ 今年度の重点取組
 - 1) 第5類移行後も新型コロナウイルス対策は今後も継続して行います。感染発生した場合には保健所はじめ行政機関、医療機関との連携により感染拡大の防止、BCP に沿った事業の継続を行います。

 - 2) 全国的に養護老人ホームへの措置件数の低下が起こり、神戸市内の養護老人ホームでも稼働率の低下、空床期間が長期化する等の状況が見られます。単なる高齢者施設ではないセーフティネットとしての価値ある養護老人ホームのあり方を発信してまいります。また、空床が継続する場合の活用方法として契約入所等活用方法を検討します。

 - 3) ICT化の取り組み
センサー付き介護ベッドの導入やナースコールの活用等、業務のICT化を進め業務の効率化、介護職員の負担軽減を目指します。

- ◆ 大規模改修工事について
今年度「神戸市民間社会福祉施設等整備補助金」を活用し住吉苑の外壁、屋上、内装その他大規模改修工事を予定しています。入居者、近隣住民にもご理解をいただきながら、神戸市福祉局高齢福祉課、設計事務所、施工業者と連携をとり、安全に工事を進めていきます。

B) 住吉訪問介護センター

◆ 行動指針

- 住み慣れた自宅でその人らしい暮らしを支援します。
- 常に温かみを持って利用者に寄り添う介護を実践します。
- 適切な介護技術を持って、質の高い介護サービスの提供を行います。

◆ サービスの取り組み

要支援・要介護状態にある利用者に対し、居宅介護サービス計画に添って可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活が営めるように支援します。研修計画に添って職員研修を実施し職員の介護技術の向上や必要な資質の向上を行い、サービスの質の向上を目指します。

◆ 今年度の重点取組

第5類移行後も新型コロナウイルスの感染対策は継続して行っています。
要介護状態となっても住み慣れた自宅での生活の継続を支える大切なサービスであることを念頭に事業の継続を図るため、職員の必要な知識と技術の向上に努めます。

C) 住吉定期巡回・随時対応型訪問介護看護センター

夜間対応型訪問介護センター

◆ 行動指針

- 住み慣れた自宅で安心して尊厳を持って暮らせるように支援します。
- 医療と介護の連携を強化し、適切な介護技術を持って利用者の心身機能の維持向上をめざします。
- 地域でなくてはならない介護サービス、地域資源としての確立をめざします。

◆ サービスの取り組み

要介護状態になった場合においても、その利用者が尊厳を持って可能な限りその居宅において生活が営めるように定期的な巡回訪問、随時対応によりその居宅を訪問し心身機能の維持回復をめざします。サービスの質向上に向けて定期的な評価を行い、その改善を図ります。

◆ 今年度の重点取組

第5類移行後も新型コロナウイルスの感染対策は継続して行っています。24時間在宅での生活を支える重要なサービスであることを念頭に必要な知識と技術の向上に努めます。神戸市定期巡回連絡協議会（神戸あんしんネット 24）や兵庫県連絡協議会に参加し他事業所の動向や行政機関との情報交換などにより運営の安定化を図ります。
より効率の良いサービスの提供を行うため、住吉訪問介護センター及び養護老人ホーム住吉苑との一体運営に努め、また委託先との連携による業務の効率化に努めます。

2. 拠点リスクマネジメント体制

第5類移行後も新型コロナウイルスの感染対策は継続して行っていきます。面会等については入館者の検温等を徹底し、施設内にウイルスの侵入を防ぎます。

職員の体調管理を万全に行い、感染疑いや発熱者への早期対応に努めます。

感染者が発生した場合は主治医や保健所等関係機関と連携を取り対応します。

安全管理対策委員会を中心として不適切ケアは権利擁護委員会にてヒヤリハット・事故報告書は適時、職員会議、ミーティングで検証します。事故防止研修、高齢者虐待防止研修により職員教育の実施、また職員のストレスケアのために臨床心理士による定期相談、メンタルヘルス研修の実施を行います。

職場におけるハラスメント対策として、相談窓口の設置、研修等を実施します。

III. 職員体制・教育

1. 職員配置及び人件費

A) 養護老人ホーム住吉苑

◆ 施設長 1名・生活相談員 1名・管理栄養士 1名・看護職員 2名・介護職員 15名・事務員 3名

◆ 別紙予算案参照

B) 住吉訪問介護センター

◆ 管理者 1名・サービス提供責任者 2名・訪問介護員（登録含）10人

◆ 別紙予算案参照

C) 住吉定期巡回型・随時対応型訪問介護看護センター

住吉夜間対応型訪問介護センター

◆ 管理者 1名・計画作成責任者 2名巡回訪問・随時対応・オペレーター職員 5名

◆ 別紙予算案参照

2. 職員確保対策

新卒、中途に関わらず常時職員の募集を行います。ホームページ他インターネット媒体やハローワークでの採用活動を強化します。特にコロナ禍におけるオンライン就職説明会やオンライン面接会などWEBツールの利用強化を行います。

3. 職員定着率向上対策

目標管理制度の充実、定期的な上司との面談によりコミュニケーションの円滑化を図ります。ストレスチェック、臨床心理士による面談など職員のストレスケアにも取り組みます。

4. 職員教育

研修計画に基づく研修を実施します。実務従事者研修の資格取得費用補助制度を活用してもらいます。介護福祉士、介護支援専門員の受験対策講座を実施します。外部研修への積極的な参加を推

進し、受講費用の補助により、人材育成に力を入れます。

IV. 会議・委員会等

1. 会議

- ・ 定例会・職員会議 ・ 処遇会議・給食会議（養護）・医療と介護連携推進会議（定期巡回）

2. 委員会

- ・ 安全管理対策委員会・事故防止検討委員会・感染症対策委員会
- ・ 権利擁護委員会・衛生委員会・災害対策委員会

V. 防災計画

消防計画に基づき、年2回職員入所者参加の避難・誘導・消火訓練を行います。年1回、防災訓練を実施する。浸水50cmのエリアであることから浸水時の訓練を実施する。毎月の災害対策委員会にてマニュアルや訓練内容の検討を行う。大規模災害及び感染症発生に対するBCPの策定を行います。

VI. 事業収支計画

A) 養護老人ホーム住吉苑

養護老人ホーム入所者常時60名を目指し、稼働率95%以上を目指します。

特定施設入所者生活介護35人利用者の確保により介護報酬による運営の安定化を目指します。

B) 住吉訪問介護センター

要支援・要介護利用者併せて常時45件を目指します。

C) 住吉定期巡回型・随時対応型訪問介護看護センター

住吉夜間対応型訪問介護センター

要介護利用者常時20件を目指し、運営の安定化を図ります。委託事業所とも連携し、業務の効率化を図ります。